叡啓大学の
共創プログラム

企業×学生×大学で「新たな価値」を探す旅

叡啓大学が取り組む「共創プログラム」は、企業・学生・大学がチームになって「新たな価値」を探す旅です。旅支度として問いを磨き、現場の一次情報を羅針盤に、仲間と現在地を確かめながら次の一手を決めて前へ進みます。

Bon Voyage!

「重要だが緊急ではない」領域への旅支度を

共創プログラムは既存事業の枠を超え新たな価値を探索します。日々の「緊急かつ重要」な既存業務に追われると、将来の柱となる「重要だが緊急ではない」領域への旅支度（着手）が後回しになりがちです。
それに対して共創プログラムは、「思考の棚卸し」を大学と協働で行い、「自社の強み×社会的ニーズ」が重なる「目的地」を探ります。これにより既存の経営資源に新たな意味づけや顧客価値を創出することを目指します。

詳しくはCASE STUDY 01 へ

立場を超えた仲間と共に

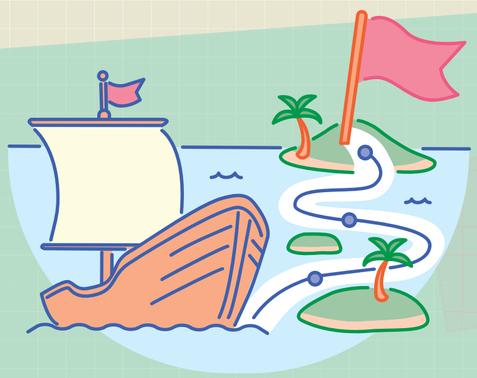
共創プログラムにおいて学生はプロジェクト推進の核として参加する「仲間」です。
学生を単なる「労働力」や「お客様」として扱う状態では推進メンバーとして力を発揮しにくく、プロジェクトの推進力は生まれにくくなります。
それに対して共創プログラムの学生は、企業と有償契約を結び、成果に責任を持つ「推進メンバー」として参画します。専門的なフレームワークを習得した学生が、状況に応じて自律的にリーダーシップを発揮し、さらに大学教員もプロジェクトの環境を整える伴走者として加わることで、チーム全体でプロジェクトを前進させます。

Move Forward!

詳しくはCASE STUDY 03 へ

現場の生きた情報を道しるべに

This Way!

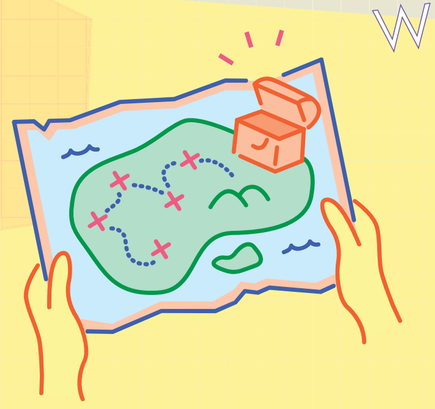


共創プログラムは「フィールドワーク」で得られた現場の生きた情報を道しるべにします。
業界内・社内の常識に基づく仮説だけで判断すると、日々変化する世界の状況と乖離してしまうリスクがあります。
それに対して共創プログラムは、学生と企業がチームとして現場に入り、観察・インタビュー等で一次情報を集め、「現場の事実」という羅針盤を持って次の針路を決定します。

「フィールドワーク」とは
調査の一種で、インタビュー・観察などで新しい事実を得ること。

詳しくはCASE STUDY 02 へ

We Are Here!



現在地を皆で確認しながら

正解の分からない「新たな価値」を探す旅は、計画どおりに進めることよりも、小さな実験を繰り返し、今何が起きているかを共有し、次の一手に納得して踏み出せるかが推進力になります。
それに対して共創プログラムは、毎週のサイクルで「やってみた結果」「その解釈」「次の行動」を回し、プロジェクトのストーリーを更新します。この「納得形成（センスメイキング）」が、チームの判断基準をそろえ、変化に強い推進力を生みます。

詳しくはCASE STUDY 04 へ